

春、安曇野に歌声が響く

安曇野では、2つの唱歌「早春賦」と「めえめえ児山羊」が多くの人によって親しまれています。節目の年を迎え、歌の心は世代を越えて未来を担う子どもたちへと受け継がれています。



第30回早春賦まつり 穂高川沿いの早春賦歌碑前で開かれ、早春賦の合唱などが行われました。

早春賦

安曇野の春の情景を歌ったとも言われる
早春賦は、誕生100年を迎えました。

100年

誕生から100年
多くの人に歌い継がれる早春賦

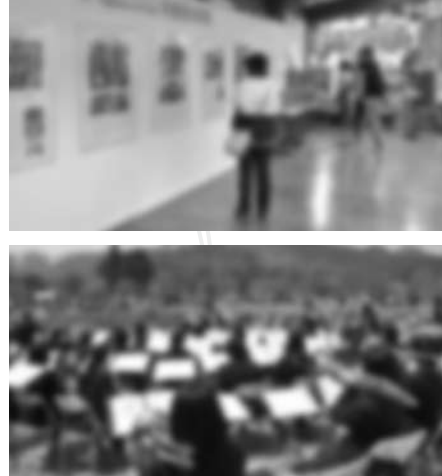
安曇野では4月から5月にかけて早春賦にちなんださまざまな催しが行われます。

大正2年に発表された早春賦は、本年度誕生100年を迎えました。この歌は、作詞者・吉丸一昌さんが、安曇野周辺を訪れた際、安曇野の遅い春を待ちわびる人々の心を詩にしたものとも言われています。また、内容から人生のいろいろな試練や苦難を乗り越えて、人生の春を待つ人々の応援歌として、全国の多くの人に歌い継がれてきました。

昨年、開催された「第2回安曇野に寄せる心の詩・作詞コンテスト」では、全国から約700点の応募があり、ふるさと安曇野に思いを込めた、市内の若い皆さんによる作品が入選しました。



第9回あつみの公園早春賦音楽祭 特別編成の合唱団による合唱と早春賦の歩みのパネル展示、市内外の子どもたちによる合唱、演奏が行われました。(5月4日、国営アルプスあつみの公園)



第30回
早春賦まつり前夜祭
オカリナ奏者の宗次郎さんとアルパ奏者の上松美香さんのコンサートが行われ、会場の皆さんと早春賦を合唱しました。(写真右 4月28日、豊科公民館)
第12回
早春賦まつりコンサート
(写真左 4月29日、あづみ野コンサートホール)



第2回安曇野に寄せる心の詩・作詞コンテスト 入選者の声



安曇野の春を伝える姿を込めました

吉丸一昌賞
「おいでよ安曇野」
米倉穂奈美さん(高校1年)
(堀金三田)

渡り鳥が、安曇野の春を伝える姿を想像して作詞しました。詞の一番大切な部分には、曲がついた時にどんな感じの歌になるか気持ちを込めました。実際に曲と一緒にした時はとても感動しました。歌が好きなので、これからも音楽にかかわることができたらと思っています。



安曇野の良さを後輩に伝えたい

修養塾賞
「ここは安曇野 私のふるさと」
奥原奈実佳さん(高校1年)
(穂高北穂高)

学校の登下校時に、ふと気づいたふるさと安曇野の良さを歌詞に込めました。詞に曲がついて、学校で発表された時はとてもうれしかったです。この歌が、安曇野はとても良い所だと後輩に伝えられたいと思います。これからも感動した気持ちを言葉で表現していけたらと思っています。

早春賦誕生100年を迎えて

市民の愛唱歌として歌い続けたい

早春賦誕生100年
記念事業実行委員会
実行委員長
望月昭彦さん
(穂高柏原)



5月26日の早春賦音楽祭では、吉丸先生の出身地・大分県臼杵市の皆さんなどが訪れます。この機会に全国の多くの皆さんと交流を持てたらと思います。100年愛される早春賦。これからも安曇野市民の愛唱歌として歌い継がれ、人の絆や連帯感が深まることを願っています。

ふるさとを思う気持ちを育てたい

早春賦愛唱会
西山紀子さん
(穂高)



毎年、市内の小・中学生の皆さんと一緒に早春賦を歌っています。作詞コンテストでは若い皆さんの安曇野を愛する気持ちがとても伝わってきました。私塾・修養塾を開き、若い人の育成にも力を注いだ吉丸先生と同じように、これからも若者のふるさとを思う気持ちを育てていきたいです。

第28回 早春賦音楽祭=本ステージ=

日時 5月26日(日)
午後1時30分～
場所 穂高会館 ※要入場料
主催 早春賦誕生100年記念事業実行委員会・早春賦音楽祭実行委員会・早春賦愛唱会
園 早春賦愛唱会 ☎82・7290

誕生から100年、ここ安曇野では、ふるさとを思い、未来への希望を込めた早春賦の心がこれからも歌い継がれていきます。



作詞者
よしまるかずまさ
吉丸一昌(1873 - 1916)
現在の分県臼杵市出身。国文学者。東京音楽学校(現東京藝術大学)教授。文部省唱歌編纂委員に任命され数多くの童謡を発表。

作曲者
なかだ あきら

中田章(1886 - 1931)
東京都出身。東京音楽学校(現東京藝術大学)教授。音楽理論、オルガンを指導。数多くの学校校歌を作曲。

